

## むつ市のマンホール蓋デザイン

### ● むつ処理区（旧むつ市地区）

むつ市の花鳥木である『はまなす(花)・おおはくちょう(鳥)・ヒバ(木)』をデザインとしたもの。

市章を中心とし、おおはくちょうが大空を羽ばたき、ヒバは大地に根ざし、はまなすは可憐な花を咲かせている様子である。デザインの際、おおはくちょうの羽ばたき、ヒバの葉、はまなすの花びらを表現するのが難しかったとのこと。

合併後デザイン



合併前デザイン



### ● 川内処理区（旧川内町地区）

旧川内町は、下北半島陸奥湾沿岸のほぼ中央に位置し、地場産業としてはホタテの養殖が盛んである。また、陸奥湾は昔からヒラメやカレイ、カニ、ナマコが多く生息している宝の海である。

このことから、下北半島、ヒラメ、ホタテ貝をマンホール蓋のデザインとし、下水道の整備によりいつまでもきれいな宝の海であって欲しいとの願いを込め製作された。

合併後デザイン



合併前デザイン



## むつ市のマンホール蓋デザイン

- 大畑処理区（旧大畑町地区）

中央の市章の周囲に、旧大畑町の木「ひば」、花「桜」、魚「いか」、鳥「かもめ」、薬研温泉郷の紅葉の美しさ象徴するモミジ、イチョウ、また新しい特産品として期待される海峡サーモンを配した。

平成 11 年 10 月 27 日、一般公募により応募総数 214 点のなかから町内各団体から選ばれた委員 7 名が、「大畑町の顔」にふさわしいデザインとして決定した。

合併後デザイン



合併前デザイン



- 脇野沢処理区（旧脇野沢村地区）

旧脇野沢村の象徴である鯛島と北限のニホンザル、天然記念物のカモシカと本村の特産品であるイノシシを選択し、マンホール蓋の絵柄にデザインしたもので、数種類の中から当時の村長が決定した。

合併後デザイン



合併前デザイン

